

第 17 回外洋加盟団体長会議 議事録

開催日時：2022 年 10 月 1 日(土) 13:00～16:30

開催場所：愛知県岡崎市 くらしの学校階段教室及びオンライン会議（ZOOM）の併用。

出席者

理事

中澤信夫副会長、大村雅一常務、望月宣武常務、中村和哉、鈴木祥子、石川彰
井上貴支、岩瀬善貞、安田大助、沼田浩行、船澤泰隆、

加盟団体（代表又は代理）

外洋北海道（会長代理）修田光紹（事務局長兼）、外洋津軽海峡会長 石川彰（理事兼）、
外洋いわき会長 菊池 郁仁、外洋東京湾会長 足立利男、外洋三崎会長 二松工、
三浦外洋セーリングクラブ会長 飯島洋一、外洋湘南会長 作田智恵子、
外洋駿河湾（会長代理）遠藤智（事務局長兼）、外洋東海会長 大島茂樹、
外洋近北（会長代理）守本孝造（事務局長兼）、外洋内海会長 永松馨介、
外洋西内海（会長代理）小山悟（事務局長兼）、外洋玄海会長 沼田浩行、
外洋南九州会長 石川国彦、外洋沖縄（会長代理） 徳田恭紀（事務局長兼）

専門委員会

外洋計測委員会委員長 川合紀行、外洋安全委員会委員 平出篤志、
通信委員会委員長 坂口城治、ルール委員会外洋小委員長 日下部大蔵、
レース マネージメント委員会外洋小委員会 三浦信郎、
キールボート強化委員会委員長 久保田悟、

参与

坂谷定生

加盟団体（事務局）

外洋北海道事務局長 修田光紹、外洋津軽海峡事務局長 上野智、
外洋いわき事務局長 菊池邦仁（会長兼）、外洋東京湾事務局長 杉浦光之、
外洋三崎事務局長 近藤等、
三浦外洋セーリングクラブ事務局長 坂口城治（通信委員長兼）
外洋湘南事務局長 福島望、外洋駿河湾事務局長 遠藤智、
外洋東海事務局長 坂谷定生（参与兼）、外洋内海事務局長 猪上忠彦、
外洋西内海事務局長 小山悟、外洋南九州事務局長 市来孝夫、
外洋沖縄事務局長 徳田恭紀

オブザーバー

外洋湘南副会長 芝田崇行、外洋駿河湾レース委員 岡本健治、
外洋内海事務局 北中育子

外洋事務局長 鈴木保夫

(順不同 敬称略) 計 40 名

大村常務理事が議長となり、中澤副会長の開会の挨拶から始まった。

開会・紹介

中澤副会長

ご参加いただきありがとうございます。

本日は会場に約 20 名、WEB 参加者約 20 名の方にご参加頂いています。

昨年 10 月から馬場新会長が誕生して新体制に移行しました。

約 1 年が経ちスムーズに新体制に移行しています。

また、今年の 3 月には理事選挙があり、新しい理事が誕生しました。

今年は全国でレースが再開されています。小さな事故はありましたが大きな事故はなく開催されていることは何よりです。本日は限られて時間の中ですが意見交換を宜しくお願いします。

続いて以下の団体の新会長、JSAF 新役員及び新委員長の紹介と挨拶がなされた。

加盟団体：外洋津軽海峡 石川彰会長、外洋三崎 二松工会長、

三浦外洋セーリングクラブ 飯島洋一会長、外洋湘南 作田智恵子会長、

外洋東海 大島茂樹会長

JSAF 理事、監事

中村和哉理事、鈴木祥子理事、石川彰理事、井上貴支理事、沼田浩行理事、

船澤泰隆理事、鈴木保夫監事

委員長

平出篤志外洋安全委員長、坂口城治通信委員長、久保田悟キールボート強化委員長

1. 外洋団体長会議について

大村常務より、団体長会議について外洋推進委員会の組織図を基に組織及び会議の役割、会議の日程が説明された。

2. JSAF からの報告

・JSASF 中期計画

大村常務より、JSAF のビジョン、もっと身近に、関わり続ける、強くなる、を具体化するための中長期戦略が資料を基に以下のように説明された。

キールボートも強化の部分ではパリのオリンピックで外洋ダブルスが予定されていたが、無くなってしまった。ブリスぺーンでの復活を期待している。

2028年のロスオリンピックではチームレースを採用する可能性がある。

チームレースとオフショアレースの2本立ての戦略を立てた。

大学対抗レースへの応援、代表チームの海外派遣等オリンピックとは離れたチームレース、本格的なオフショアレースも行っていく。

オフショアレースの振興を図るためにレースの開催支援や日本人講師によるサバイバルトレーニングが開催されたこと等が報告された。

・JSAF 加盟団体規程案について

大村常務が既に意見を出して取り纏め表にある加盟団体に意見の説明を求めた。

石川理事：北海道東北水域では、会員が減って20名以下になった場合はどうなるのか。高齢化で会員が減っている中で20名のハードルは高い。

大村常務：外洋系では1/3、都道府県連の1/4が20名に満たない状況。

外洋湘南 柴田：権利義務を明確にすることについては賛成、連名と加盟団体は独立しているので、双方は補完関係であるべきである。

コンプライアンスをかなり求める内容になっている。

公的助成を受ける組織に対してと思われるが、その関係性は外洋団体とは合わないのではないかと。加盟団体の独立性を確保した規程の制定を望む。

加盟団体の権利についての提案となっているが、権利ではなく権限と考える。

助言、指導について定められているが、内容が加盟団体を縛るような内容になっている。

会費の徴収業務は現行では連盟の代行業務となっている。

従来方式は廃止すとの案内が出ているが、矛盾が生じないように規程に入れて頂きたい。

外洋東京湾 足立：事務の処理量が多くなっている。

二重に会員を報告するような内容になっているが、従来通りで良いと考える。

加盟団体の事務の軽減が出来るかが懸念される。

外洋駿河湾 遠藤：第6条の届け出義務の範囲が広すぎる。内容は理解できるが実行面で考える必要がある。

三浦外洋 飯島：権利義務を明確化させることについては異議がないが、JSAFと加盟団体とは支配関係にない。独立した組織に、検査、指導、処分ということで踏み込

んでくるのは、クラブ内で相当抵抗があった。その部分を再考してもらいたい。

外洋三崎 二松：JSAF と三崎はフィフティー・フィフティーの関係にある。

金銭関係のトラブルが無いように我々の団体は自らしっかりとやっていきたい。

本部と我々は上下関係にはない。

コンプライアンスを共にやっていけるように作って欲し。指導や処分という言葉
を上手に表現してもらいたい。

次に追加の意見を求めたところ、以下の意見が出された。

外洋湘南 作田：JSAF が示している指導とはどういうことか。指導するのであればわ

かるまできちんと指導してもらいたい。指導という意味を明確にってもらいたい。

皆さんが本部、支部の言葉を使うところに誤解があるのではないか。

NORC とは違って今はそのような関係ではない。

加盟団体は国連のように加盟している関係である。

それぞれの自由なところはそのままにして、大事なところは共通にしていくべき
と考える。理事からの意見を聞かせてもらいたい。

大村常務：加盟団体に対するイメージは理事の中でもそれぞれ違うと思う。

案を作成している人とそうでない理事とでも違うと考える。

この案は、理事会でも協議中の案であり、JSAF としても一つに纏まっている訳で
はない。

案には上から目線と感じられるところもあるので、既に意見を出している団体も
まだ出していない団体も是非意見を出して頂きたい。

外洋湘南 柴田：外洋系の理事の意見を聞かせて頂きたい。

井上理事：どのように纏めていくのかが見えていない。具体的には会員数 20 人以上
の規程は実態に合っていないので、矛盾があるところは実態に合わせて変えるべ
き。

特別加盟団体から意見が出ていないのは、目的が伝わっていないのではないかと
考える。

沼田理事：人数 20 人を切った時にどうなるのか気になるところ。

外洋湘南 作田：理事会の中での理事の反応はどの様なものであったのか。

大村常務：この問題は春の理事会から協議事項で何回も上がっている議案で、加盟団体の意見を聞くことになったが、あまりにも意見が多かったので 9 月の理事会でも決まらなかった。

馬場会長も良く議論して皆が納得するような形でなければ決められないと言っている。今は意見を聞いて良いものにしようとしている段階にある。

都道府県連は国体があるので外洋加盟団体とは事情が異なる、また特別加盟団体とも異なる。

皆さんからは更に意見を出して頂きたい。

外洋湘南 柴田：見えない部分があるように感じるので、この案を作成している方々の意見を聞きたい。

大村常務：ガバナンスコード等は協議団体の不祥時を下にスポーツ庁からの流れで作成しているので、作成している方が必ずしも外洋加盟団体や艇種別協会の事情を知って作っているわけではない。こちら側から意見を投げていかないと反応が出てこないと考える。

外洋南九州 市来：多様性のある団体が連なっているので、細かい規程を作る必要はないと考える。

外洋三崎 二松：スポーツ庁からガバナンスコードが出されてそれに沿ってスポーツ団体がコンプライアンス上、問題が無いように運営していきましょう、ということを出されていると解釈している。他のスポーツ団体はヒエラルキーがしっかりとしていると感じるが、セーリングの中で特に外洋団体は夫々が独立しているのであまりヒエラルキーが作れないスポーツと思う。スポーツ庁が指導するのをそのまま外洋に持ってくるのは違和感がある。問題を起こさないようにコンプライアンスをきちっとしっかりと我々自身が運営していこう、我々団体の中で共に作っていこう、という趣旨で規程を作って頂きたい。

上下関係のない規程にしてもらいたい。条文がきつくならないように工夫してもらいたい。

3. 各委員会からの報告

・外洋常任委員会

大村常務：11 月 25 日から北九州のサバイバルトレーニングセンターで第 2 回目のサバイバルトレーニングを開催する。来春には関東でも開催する予定。

毎年 1、2 回開催したいと考えている。

海外レース参加者も受講を検討願いたい。

小笠原レースは2019年までは沖縄東海レースと交互に開催されてきたが、昨年はコロナ禍で中止となった。次の開催は関係団体と検討が進んでいる。

実施案について資料の通り説明する。

小笠原は世界自然遺産になっているので、観光客も多く特にゴールデンウィークは小笠原丸や宿泊施設も一杯の状態になる。2019年に小笠原レースを実施したが、ヨットレースのために船のチケットや宿泊施設をまわしたために、他の観光業者からクレームが出たとのことであった。

そのため、従来とは違い小笠原をフィニッシュとし、ゴールデンウィークを外す計画で進めている。

参加艇数や安全を含めて最終的に決定する。

セールナンバーについては昨年から会員以外にも発行できるようにした。

現在、安全面で2つのことを進めている。

一つはセールナンバーを付けていると団体扱いで保険が安くなる場合があること。これはKAZIの9月号で紹介されている。

もう一つはBANとの連携を協議していること。

協議の中で、データでは加入率はモーターボートの方が高いが、救助の割合はヨットの方が高いことが分かった。

日本オーシャンレース協会では50マイル以上のダブルハンドに賞を出して支援することになっている。

・外洋安全委員会

平出委員長：秋の安全週間が実施される。内容は資料の通りである。

事故報告は以下の通りである。

4月 初島卯月レース

参加艇がラダートラブルで保安庁に救助曳航された。

5月 ドラゴン全日本選手権

帰港時に前線通過で航行不能となり曳航された。

7月 HPR レガッタ

ライフラインが破損してクルーが落水した。

7月 種子島カップヨットレース

ワイルドジャイブ時にメイントリマーが肩を脱臼。

7月 パールレース

① 御前崎付近でデスマスト

② 利島付近でシートとデッキの間に左手指が挟まれて切断損傷。

切断部分を持って大島の病院に駆け込んだが、大島では手術が出来ないので
へりで都内の病院に搬送され手術。

③ 利島付近でワイルドジャイブ時にヘルムスマンがティラーエクステンションで目の上の部分を切傷。

久しぶりにレースが再開された為か、事故報告が義務づけられた結果なのか不明
だが報告が多かった。

外洋合同委員会を資料の通り、2月に開催する。今年度は会場とWEBとの併用で
開催する。

会場は東京で予定し、夢の島マリーナと交渉中である。

・外洋計測委員会

川合委員長：2年続いたコロナ禍であったが今年は予想を超える証書の発行があった。

オーナーや協力を頂いた加盟団体に感謝する。

今年はレースの開催が3年前に戻り順調に証書の発行が行われている。

円安の状況から来年度は料金の値上げを検討し、12月に発表する準備をしている。

・通信委員会

坂口委員長：長い期間活動がなされなかったので基本的なことを知って頂くことから
活動を開始する。

資料について説明する。71chと74chはJSAFに所属する海岸局との間で使用できる
チャンネルである。

ヨット同士の交信は69ch、72ch、73chを利用することになっている。

S I等でレースの通信手段として71ch、74chを使用することになっているものを見かけるが、
海上の船舶が本部の場合に71chと74chを使用すると法を逸脱することになってしまうので、
72ch、73chを使用してもらいたい。

71chと74chはJSAF海岸局に加入しないと使用できないことを理解して頂きたい。

加入の方法は資料の通り。JSAF非会員艇でも登録ができる。

海岸局の加入が年々減っているので掘り起しをする。

・レースマネジメント外洋小委員会

三浦委員長：合同委員会の開催時に、計測委員会から基本的なレーティングの利用の
仕方を詳細に説明する。

- ・ルール小委員会

日下部委員長：活動計画を資料として提出した。

活動の1つ目はジャッジマニュアル 2021 邦訳版が完成したこと。

2つ目は外洋レースの普及支援を行っていること。

3つ目は活動協力として小笠原レースの実行委員会にルール委員会より2名派遣すること。

4つ目は若手ジャッジの発掘育成を行っていくことである。

- ・キールボート強化委員会

久保田委員長：若い世代のセーラーがディンギーからキールボートにシームレスに繋がっていくことを目的にやってきた。

キールボートを持っていない若い人にキールボートに乗る機会を作っていきたい。地域のクラブを活性化するために手伝っていきたい。

- ・ジャパンカップ員会

中澤副会長：ジャパンカップの委員長をオーナーに交代することとし、オーナーに意見を聞いている。

レース環境が変わってきているので、今後のジャパンカップの在り方について纏めているので改めて相談させて頂きたい。

- ・9月24日現在の会員数と艇登録数が大村常務より説明された。

会員数 1,872 名

艇登録数 763 艇

特殊ナンバーの内訳は資料の通り。

4. 各団体からの報告

- ・北海道 修田：小樽カップ等シリーズレースが7戦を行っているが高齢化で参加者が減ってきている。

加盟団体規程については、団体加盟費の人数の切り方が現実合わないのではないか。

- ・津軽海峡 石川：函館と青森に大きく分かれている。

活動期間は6月～10月となっている。函館は月に2回のペースでレースを行っている。青森も高齢化が進んで年に1, 2回しかレースをやっていない。

青函カップヨットレースが3年ぶりに開催された。

過去、ロシアから、5、6 艇の参加があったが今年はゼロであった。

8 月に外洋北海道とエンレムカップを開催し、4 艇の参加があったが 8 月の大雨で流木が多くあり危険だった。

9 月の第 45 回津軽海峡横断レースは今まではディンギー系の団体が行ってきたが、高齢化により、南北海道外洋帆走協会が主導して行った。

- ・いわき 菊池：6 月からいわきサンマリーナの運用が始まったがレースは行っていない。福島県でクルーザーの体験乗船会に協力した。

高齢化だが小名浜レースを復活したい

。

- ・東京湾 足立：3 本のレースを主催している。

4 月に三崎から横浜のレース、8 月にトーキョーズカップを行ったが今年はコースを変更した。東京湾の航路なので神経を使いながら実施した。

10 月に浦安でインショアレガッタを予定している。

今年はコロナでパーティーを調整して行った。

規程については、特別加盟団体の本来のあり方については現実に即した検討をお願いしたい。

- ・三崎 二松：会員数は現在約 350 名で発足当時より約 30 %減少した。

高齢化により艇も減っている。

会務に携わる人材も減ってきたので、現在組織の改編を行う WG を発足して検討している。現在は総会、代議員会、常任委員会と三層構造であるが、もう少しコンパクトに良い組織にしようと WG が考えているので、ここ 1 年で組織が大きく変わる予定。

常任委員会では、会員への最高のサービスについて議論している。

将来を通じてレースを楽しくやる。そのためには航海技術、帆走技術、安全技術を高めていく、技術交流や会員の交流も進めて仲間を増やして後継者を増やして地域に貢献する事を考えている。

若い人が楽しく参加できるようなユースプログラムを作り上げたい。

今年のレースは、初島卯月レースに 23 艇、相模湾ヨットフェスティバルに 28 艇が参加。神子元レースは 10 艇のエントリーがあったが、台風で中止となった。

初島ムーンライトレースは準備不足で中止、5 月に予定していたショートハンド 1・2・3 レースは 10 月末に延期され 30 艇の予定で開催の予定。

いずれもコロナで表彰式は行わず、トロフィーを送ることに留めている。

- ・三浦 飯島：年間で毎月開催のレースが 2 種類ある。一つは湘南レースで毎月 1 回、年

間 12 本、小網代フリートレースが年間 12 本、その他に 11 月に開催される小網代カップレース、その他は外洋湘南と共同で開催されるトランスサガミ、10 月の若大将カップ、10 月のショートハンド 1・2・3 レースは三崎と共同主催、ロングレースは無いが毎月のレースでかなりのレースをこなしている。今年は 4 月以降コロナの影響を脱し、天候で中止になったものがあつたが、粗スケジュール通りに開催できた。会員数はここ 5 年、10 年は横ばい状態。

- ・湘南 作田：水域に特別加盟団体が 4 つある。葉山マリーナヨットクラブ、葉山ヨットクラブ、逗子マリーナヨットクラブ、江の島ヨットクラブの 4 つである。
何処もクラブが活発にレース活動をしているので湘南がレースに力を入れているわけではないので他の団体とは少し違うと考えている。
広い水域なのでその間のコミュニケーションをどうやるかが重要となっている。
各クラブのコモドアを中心にコモドアカップレースを長く行っている。
そのおかげでフリートのクラブと円滑に付き合いが出来ている。
各フリートのキャプテンが力を発揮して艇登録にも力を入れているので、コロナだが少しずつ艇数が増えている。会員数はレースに参加しない会員が増えたので、逆に今年は会員が減っている。
コロナ対策に 100 万円の特別予算を計上し、その半分を会員にコロナの援助として配布した。
送料も掛かることから継続の会員からは会費から 1000 円を引いて相殺した。
退会した会員にも口座 No を聞いてほとんどの会員に支給できた。
残りの半分は総会、大島レース、パールレースのスタッフに検査キットを事前に配布してコロナの広がることを防いだ。実際にパールレースではスタッフの中に事前に陽性者が分かったのでコロナの感染を防げた。
総会では事前に検査キットを送ったので久しぶりに会って食事を楽しめた。
レースをしていない会員にも楽しんでもらえるイベントを検討していきたい。
三浦と同様にシーサバイバルの翻訳本を全会員に配布したところ好評を得た。
安全講習会が出来れば今年目標は達成できる。

- ・駿河湾 遠藤：登録艇のレースは月に 1 回開催している。
年に 1 回駿河湾横断レースがあるが今年中止。
会員は高齢化で退会者が出ている。

- ・東海 大島：沖縄東海レースは 10 艇が参加、パールレースは 45 艇の参加があつた。
4 月に開催される三河湾周遊レースは 15 艇、5 か所湾レースは 11 艇、エリカカップは 50 艇の参加があり、パーティー無しで全て開催されている。

10月にチャンピオンシップレースを開催の予定。

全てパーティー無しだが、今までレースが無かったので参加者は満足していると聞いている。

- ・近北 守本：徐々にレースが復活している。

近北での主催レースは無いが、各クラブが復活しだしている。

会員の半数は東海や内海で活動している。

4月の更新時ではなく夏から会員が増えているので、各地のレースが増えていると感じている。

加盟団体規程については ZOOM で富山県連、京都府連、金沢、福井、滋賀、外洋近北で会議を行っている。あるべき姿と現実が混在していると感じる。

方針から入るべきと考える。

細かすぎることを提示されているので、押し付けられていると感じるのではないかなと思われる。名簿の提出に反対の意見もある。

近北としては会員システムを利用しているので、本部に名簿はある筈なのに更に出すということは、この案を考えている人は現実を理解しているのか疑問。

- ・内海 永松：年間 12～13 レースを行っている。

2019 年は約 100 艇の参加があったが、2020 年は殆ど参加艇が無く、昨年は約 50 艇まで回復したが、レースは 1/3 程度しかできていない。

今年は順調に開催できているが、パーティーは無く表彰式のみとなっているので、参加者にとっては寂しい。

3 年ぶりに開催された全日本ミドルボート選手権には 18 艇が参加し、パーティー、表彰式も行われた。

会員数は激減して最盛期の約半数以下となった。

登録艇は 100 艇台であったが、今年は 90 艇台に減少してきた。

若い人の参加が難しくなっているので、若い人が参加できるような開かれた会にしたいと検討している。

- ・西内海 小山：年間 11 レースを実施しているが、台風や水害で半数以下の 4 レースしか実施できていない。

広島是水害に合うと天気は良いが、2 週間はレースが出来ない状況が今年は続いている。

インショアレースとオフショアレースが半々だが、オフショアレースをやると退会した懐かしい人が参加している。もっと若い人にも参加してもらいたい。

- ・玄海 沼田：毎月上下のクラブレースが主体だったが、コロナと高齢化で参加者が減っている。参加できなくなったチームも増えている。
最近の方針を替えて、ショートオフショアの島回りレースを行っている。
今年は天候による中止が続いている。
長崎のハウステンボスも無くなったので、活性化に向けて考えている。
- ・南九州 石川：錦江湾と三島、種子島を中心にレースを行っている。
今年は台風で2回、落雷で1回、爆弾低気圧で1回、計4回が中止となった。
4月の種子島レースはコロナで7月に延期となり、鹿児島から根占まではメイバーカップとし、その後回航して7月18日に種子島から山川までのロングレースを行うことが出来た。
6月に安全講習会を行ったところ、海上保安庁の協力が得られた。
来年の三島カップは県外艇も受け入れる予定。
- ・沖縄 徳田：年に5レース開催していたが、最近はコロナで全て中止。
座間味レースはパーティー無しで、40艇に絞って開催した。
座間味レースの参加者は半数以上が県外から。
加盟団体規程については、10名を切った団体がどうなるのか心配。

5. 意見交換

- ・理事、団体から質問等の意見が無かったので大村常務が次回の団体長会議が1月29日に開催されること、前日の28日は代表者会議が開催され、その後新年会、会場は東京でWEBと併用で開催されることが説明された。

続いて望月常務より挨拶と加盟団体規程についての考え方や背景が以下のように説明された。

加盟団体規程について多くの意見を頂き感謝します。

加盟団体規程は、日本スポーツ協会（JSPO）のものをそのまま使うのではなく、セーリング競技団体の特殊性を考慮する必要があると感じている。

JSAFもまた、上部組織のJOCやJSPOからの上から目線を感じている。

何故ならばJOCはオリンピックの代表を選ぶ権限を持っていること、JSPOは国体への参加を通じて、JOC・JSPOから中央競技団体、中央競技団体から都道府県の加盟団体、という二重の上から目線になってしまう伝統があったと思う。

それに対して外洋（NORC）は、オリンピックや国体の種目ではないので、オリンピックや国体を頂点としたあり方とは違い、トップダウンではない組織だった。

そのような中で、JSAFはガバナンスコードを遵守するために、加盟団体規程を作る

必要があるが、これは JSAF 側の事情でしかないので、JSAF と加盟団体の双方にメリットが無ければならない。決して上から押し付にならないように、JSAF は気を付けなければならない。

来年も加盟団体関係で大きな論点があるので引き続き皆様の意見を宜しく願います。

6. その他

湘南 作田：9月3日の理事会に出された協議事項の、一般社団法人シーボニアヨットクラブの特別加盟団体の申請を審議して特別加盟団体にしなければならない理由が分からない。審議する理由について説明して頂きたい。

大村常務：申請が上がったのでダメな理由がない限り、自動的に出すことになっているので理事会に出したものであり、これから審議することになる。

望月常務：前提として法人格のない団体が内部分裂して法人格のある団体と法人格のない団体とに分かれた様に外部からは見える。

両団体の間で係争中であるので JSAF としては、どちらの団体が正当であるという立場はとらず、両団体とは関わらないスタンスであったが、特別加盟団体の申請が形式的に調っていれば一旦受け付けざるを得ない。

双方がお互いに相手側の加盟申請に異議を唱えない状況になってきたので、申請を受け付けざるを得ないと考えている。

坂谷参与：県連や特別加盟団体が艇登録をするようになったが、外洋以外の団体の事務手続きに問題はないか。

外洋 WG が解散したがもう一度立ち上げて検討する必要があると考える。

内海 猪上：JSAF に統合した時にもっとよく検討すべきであったと思っている。

最後に外洋東海の大島会長の次の閉めの挨拶で閉会となった。

本日はいろいろな意見が出ました。今後も会場と WEB とで全員のお顔が見えるようになれば良いと考えています。

本日はお疲れ様でした。

16：30 に閉会。

以上

議事録署名人 石川 彰

議事録署名人 大島 茂樹